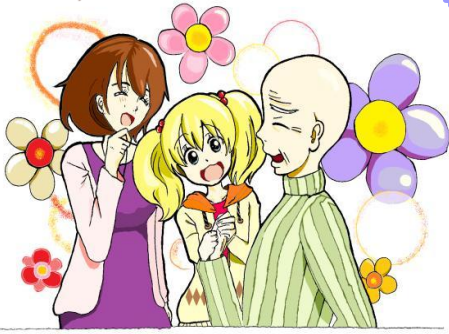


# myらいふ



## ● 記事のご案内 ●

1985. 4. 25~  
-148号-

- ① かぬま学びフェスティバル 2016
- ② 脳を鍛えるリトミックヨガ1
- ③ 地域デビュー講座「かぬま秋まつり・知ってもっと楽しもう」
- ④ 秋から始めるガーデニングスクール
- ⑤ そばちょこ日本語教室
- ⑥ はじめての和紙ちぎり絵
- ⑦ 人権を考える市民のつどい

myらいふは、市民編集員が取材・編集する生涯学習情報です。



## 学びが学びを呼ぶ かぬま学びフェスティバル2016



日頃の学びの成果を発表する晴れの舞台「かぬま学びフェスティバル 2016」が、10月15日(土)・16日(日)の2日間にわたり、市民情報センター・文化活動交流館・図書館・川上澄生美術館で開催されました。このイベントは、かぬま生涯学習大学の講座やサークル活動等で学ぶ方々が、ステージでの実演や作品の展示、体験コーナーや模擬店を通じて、日頃の学習の成果を多くの人に知ってもらおうというねらいのもと、平成18年から毎年この時期に開催されています。



展示・体験の様子



2日間とも天候に恵まれ、会場は多くの参加者でにぎわっていました。特に、市民情報センター1階の実演ステージ前には、ダンスやミュージカル、楽器の演奏などを見るために多くの人が集まっていました。その他各フロアにおいても、展示作品の絵画や川柳などを鑑賞する方や、体験コーナーの絵手紙などに挑戦している方がみられました。屋外では、この日のために腕を磨いてきたグループが、焼きそばやスムージーなどを販売していて、美味しそうな香りと彩りが来場者を引きつけていました。また、文化活動交流館にて「太陽の観察」、川上澄生美術館で「木版画刷り体験」、図書館では「市内小中学生による社会科作品の展示」を実施していたりと、会場一帯はたくさんの“学び”に溢れていて、多くの方があちこちを行き来しながら感心する様子が見られました。



実演「初めてのミュージカル」



体験「すこやか絵手紙」



実演「オカリナ吹奏」



文化活動交流館  
体験「星砂で星座絵工作」



図書館  
展示「鹿沼市社会科展」



川上澄生美術館  
この日は中学生以下の子  
ども同伴で入場料が無料

大盛況のうちに幕を閉じた「かぬま学びフェスティバル2016」。多くの来場者は、たくさんの“学び”から熱意と面白さを感じたのではないのでしょうか。新たに学びを始めるきっかけとなった方も多いかもしれません。





# 赤ちゃんといっしょにはじめましょう ～ママ&赤ちゃんにうれしい効果♪♪～



11月24日(木)、関東では54年ぶりの早い雪の便りがありました。その日は、生後3ヶ月から1才6ヶ月までの親子が対象の、かぬまマイ・カレッジ主催「脳を鍛えるリトミックヨガ1」が市民情報センターで開催されました。講師は、田中真弓先生、星野敦子先生のおふたりです。悪天候の中参加してくれた親子は1組、1才2ヶ月の女の子でした。



あいさつから始まり先生のピアノに合わせて親子で体を動かします。赤ちゃんの名前を何度も呼び、目を見て話しかけます。ボール遊びや、空箱の角に開けた穴に小さな玉を入れ振ったり、箱に輪ゴムを付け引っ張って離すと音が出るなど、手作り玩具でともに遊びます。



はじめは興味を示さなかった赤ちゃんも徐々にニコニコし、声を出して笑顔になっていきます。お母さんが笑顔でいるので安心するのだそうです。



「この時期にほめるのは一生もの」「よだれをたらす時は脳を使っている」「色々な体験をたくさんすることによって脳が活性する」等、先生のアドバイスひとつひとつがうなずけるものでした。

休憩を含めた1時間がアツという間に過ぎました。参加されたお母さんは、子育て中は社会とのつながりが少なくなるので、講座に参加することで、子育ての悩みや不安が解消され楽しめるとのことでした。

親子でリフレッシュしたい方に、ぜひおすすめしたい講座です。



## めでたく「ユネスコ無形文化遺産」登録で締めくくった「鹿沼秋まつり」講座



鹿沼市民の必修科目とも言える「鹿沼秋まつり」を、より深く知ろうという今回の地域デビュー講座「鹿沼秋まつり・知ってもっと楽しもう」は昨年4回シリーズで開催されました。1回目(9月)のタイトルは「鹿沼秋まつりが始まります」。2回目(10月)は「屋台をじっくり見てみよう!」で屋台の実物見学。3回目(11月)は屋台製作職人の工房訪問。そして4回目(最終回)の「鹿沼秋まつりとユネスコ無形文化遺産」が12月8日(木)に市民情報センターと文化活動交流館で開催されました。

折しもユネスコ無形文化遺産登録決定の朗報からまだ1週間ということもあり、講師を担当された市文化課の永岡氏と原田氏のおふたりと7名の受講生の表情はとても嬉しそうで晴れやかでした。



講座の前半ではまず、そもそも「ユネスコ無形文化遺産」とはどのようなものかや、今回の登録までの経緯、また混同されやすい「世界遺産」との違いなど、資料をもとに詳しい説明がありました。



後半は、今回の登録を記念して文化活動交流館・郷土資料展示室で開催されている「山・鉾・屋台行事と鹿沼今宮神社祭」展を見学。「鹿沼秋まつり」と同時に登録された那須烏山市の「烏山の山あげ行事」など、日本各地の計33件の「山・鉾・屋台行事」の紹介展示を見ながら、説明に聞き入りました。今宮神社に伝わる貴重な資料の展示も目を引きました。

市では今回の登録を貴重な観光資源として活用し、さらなる活性化を推進してゆく計画とのことです。また昨年末から年初にかけてさまざまな記念の行事が企画・実施され、今秋の「鹿沼秋まつり」の盛り上がりも楽しみです。





# 新年を素敵に演出！寄せ植え作り



12月19日（月）、11月並みの暖かさとなったこの日、かぬまマイ・カレッジ主催「秋から始めるガーデニングスクール」を取材するためにプリティガーデンを訪れました。3回シリーズの最終回はお正月の寄せ植え作りです。講師の先生は、グリーンアドバイザーの渡辺順子さん。受講生は4名です。用意された材料は、パンジー、ハボタン（2種類）、オタフク南天、万両の4種類です。



はじめに、木で作られた和風調の鉢の中にスコップを使って大玉の赤玉土を入れていきます。さらに培養土を鉢の半分くらいの高さまで加え、材料をポットから取り出して置きます。背の高いハボタンを置く位置を決めてから他の材料を植えていきます。受講生は「根が詰まっている場合は、ほぐしてからハサミで少し根をカットしてください」などの先生のアドバイスに耳を傾けながら楽しそうに手を動かしていました。寄せ植えのデザインが決まったら株と株の間に土を入れてすき間を埋めていきます。割り箸を使ってつつくようにするとうまく土が入っていきます。

最後に手芸用のコケで土全体を覆うようにします。迎春の文字が書かれたピックを差してお正月寄せ植えの完成です。



出来上がった作品を見て、「良いお正月が迎えられそうだな」と皆さん満足そう。テーブルにはお茶とお菓子が用意され、柔らかな日差しに包まれて先生と受講生の皆さんの会話も弾みます。

植物の植え方から管理方法まで丁寧に教えていただくことができ、心癒される素敵なひとときを過ごすことができました。



## 日本語教室で感じる、鹿沼の地域のか

12月14日（水）、在住外国人のための「そばちょこ日本語教室」が行われました。鹿沼市国際交流協会主催のこの教室は、「日本語ボランティア養成講座」を修了した方々が講師となって、毎週水曜日の午前中に市民情報センターで開催しています。1回の講座につき講師は複数人で対応していて、今回の講師は4名でした。また、学習者も4名で、ネパールや中国、インドの方々でした。今回は出席していませんでしたが、他にもナイジェリアやペルーの方などがいらっしやいます。



この教室では、文字どおり日本語を勉強することが目的ですが、ただの講座ではなく、講師の方が様々な工夫を凝らして学習者が楽しめるものになっています。今回は「年賀状作り」を行いました。



年賀状という日本の文化に触れながら、住所や名前、一言のメッセージの書き方を学んでいきます。特にメッセージについては、講師の方が一語一句丁寧に教えていました。学習者も見本を参考にしながら漢字を丁寧に書き写していました。また、講師と学習者だけではなく、学習者どうしも話しながら和気あいあいと作業を進めていて、終始和やかな雰囲気でした。



毎回取り組みを変えていて、他にも「名刺づくり」や「イラストの名前を当てるゲーム」などを行うことがあるそうです。この教室では、文法よりも簡単な会話表現に力を入れているとのことですが、「なによりも、学習者にとって楽しく話ができる居場所でありたい」と講師がおっしゃっていたのが印象的でした。

また、教室以外にも学習者との交流があり、困ったことがあればサポートすることもあるそうです。親身になって接してくれる講師の存在は、学習者にとって大変心強いことでしょう。

身近なところにある温かな国際交流の中に、在住外国人を支援する地域の確かな支えを感じることができました。



## ちぎって、はって、季節のちぎり絵

12月13日(火)、かめまマイ・カレッジ主催「はじめての和紙ちぎり絵」を取材しました。講師は相澤千枝子さんです。受講生は女性8名で、今回で3回目の開催でした。

ちぎり絵というのは、ちぎった紙を台紙に貼って表現した作品のことで、主に和紙を使用し、手でちぎることで紙のちぎれた部分の質感が独特な雰囲気をかもしだします。今回は今年の干支の酉を仕上げました。

まず最初に色紙にカーボンをはさみ下紙を写します。その下紙には、番号がついていて、ちぎった和紙を番号順に貼っていきます。貼る際にコツがあり、内側から外側に向かってのりづけをして貼ります。そうすることにより紙の繊維が外側にのびていくのでケバが立ちます。

目やくちばし、トサカなどの細かい部分はハサミで切って貼り付けます。最後に筆でこすり、全体を整えて完成です。仕上がったみなさんの作品は、今にも動き出しそうで生き生きとしていました。

受講生の方に感想を聞きました。「とても集中できる時間でした。出来上がるのが楽しみです」と笑顔で答えてくれました。

相澤先生は、「和紙をちぎったりさいたりして、季節に合った作品づくりを自分なりに表現して楽しんでいただきたい」とおっしゃっていました。さあ、みなさんも自分だけの時間をちぎり絵で過ごしてみませんか？



## 優秀標語と爆笑トークで人権を考える市民のつどい

12月4日(日)鹿沼市文化センターで『平成28年度 人権を考える市民のつどい』が開催されました。

二部構成となっていて、第一部は、人権啓発の一環として今年8月に応募された、人権啓発標語2713点の中から選ばれた入賞13作品の表彰式が行われました。第二部では「サニー・フランシスの爆笑辛口メッセージ〜日本人のちょっとここがヘン〜」と題された、テレビやラジオで活躍中のサニーさんによる講演会が行われました。

日本に来て丸30年。来日のきっかけやその当時の苦勞、テレビやラジオの仕事を含め今日までの生活を通し、外国人と比べた色々な生活習慣の違い、日本や日本人の良いところなどを楽しくも辛口で、そして何より聞く人に届きやすいサニーさんらしい喋り方で話して下さいました。

今回は人権がテーマですが、日本に来たばかりの頃、先輩と二人で住まい探しとても苦勞し、何軒も断られ困っていた時に、最後に出会った大家さんが自分たちの、見た目や恰好だけに対する判断ではなく、相手をしっかりと見て部屋を貸すと言ってくれたこと。その出会いと大家さんの人柄に今でも感謝していて、お付き合いがずっと続いているとのことのお話がありました。どこにいても、どんな時も人にとって生きるうえでそういう出会いはとても大切。自分の国と比べて、日本はとても住みやすく、人権の問題もしっかりと考えている国だと思う。この先オリンピックに向けてもいろいろな国の人が日本に来る。そんな事も含め人権の事を考えていくことも大切なことだと思うと・・・サニーさん。

笑が多いトークの中にも、日本の文化や国民性が海外から来た人たちに、どのように見えているのかを知ることができた90分間でした。

### 編集後記

満開の桜や色鮮やかな紅葉を見るたびに、なぜか深い感慨を覚えるようになりました。幼い頃には、意識することもなかった移りゆく自然への感動とともに「この景色をあと何度見ることになるだろう」と思う素直な気持ち。今まで出会った人々への感謝を込めて、どんな年齢を迎えても、今という時間やそばにいてくれる人を大切に生きてゆかなければと思う今日この頃です。

瀧田祐三